

水稻

▶ 収穫が終わったら**秋耕**を実施しましょう！

未分解の稲わらが代かき後に急激に分解されると、土壌が異常還元状態（ワキ）となり、根の障害が起こって水稻の初期成育が抑制されてしまいます！

収穫が終わったら、なるべく早く秋耕を実施しましょう！

・秋耕について

稲わらを土壌に浅く混和し、土壌微生物の働きにより稲わらの腐熟分解を促進します。

気温が高いほど腐熟分解が進むため、収穫後なるべく早い時期に実施しましょう。（遅くとも10月下旬頃まで）**深さ5cm程度で浅く耕起**しましょう。

秋耕を実施することが困難な場合は、腐熟促進資材を施用し、稲わらの腐熟を促進しましょう！

・稲わらの腐熟促進おすすめ資材 ※いずれか1つ施用

	ワラ分解キング ／10kg	石灰窒素 ／20kg
肥料名／荷姿		
施用量（現物）	10kg／10a	20kg／10a

・腐熟促進資材について

稲わらに直接ふりかけて使用します。降雨後や朝露などで稲わらが湿った状態で使用するとより効果的です。

施用後できるだけ早く土壌にすき込み、深くすき込まず **5～10cm程度**で土とよく混和しましょう。

「石灰窒素」など窒素成分が含まれる資材を秋施用した場合は、玄米粗タンパク質含有量が高まったり、生育過剰となったりするリスクがあるため、基肥などの施用量を減らしましょう。

・稲わら分解以外の石灰窒素の効果

石灰窒素には、稲わら腐熟促進以外にも様々な副次的効果があります。

①雑草・害虫防除

水稻においては、ノビエの休眠覚醒、一年生雑草、ユリミミズ、ザリガニ、スクミリンゴガイに農薬の登録があります。 [※ご使用前に最新の登録内容をご確認ください。](#)

②土壌のpH調整

石灰窒素には石灰分が含まれているため、土のpH矯正ができます。ただし、pHの高い圃場では施用量に注意してください。

③養分供給

緩効性の窒素質肥料として、作物の栄養になります。また、カルシウムの補給にもなります。

・圃場の均平と排水

コンバインなどの秋作業で田面の凹凸が大きくなった場合は、秋のうちに均平作業を行っておきましょう。また、排水の悪いところには明渠（排水溝）を掘り、停滞水を排除し圃場の乾燥に努めましょう。

■果樹

▶りんご「ふじ」着色管理

着色管理は支柱の立て直しや枝吊りから行いましょう。大枝同士の間隔を空け、樹冠内部まで光が入るよう樹全体の日当たりを良くしましょう。

葉摘み、玉回しは2～3回に分けて行いましょう。

1回目の葉摘みは9月末～10月上旬頃に、果実に密着している葉や日かげを作る葉を主に摘みましょう。1回目から多く葉摘みをする、着色遅延、糖度低下、来年の花芽の充実不良など悪影響があるため注意しましょう。

2回目は10月中旬頃に、果実周辺の葉と徒長枝や発育枝の葉を摘み、あわせて玉回しを行いましょう。その後は、着色の進みを見ながら、葉摘み、玉回しの修正を行います。

「りんご黒星病」の伝染源を少なくするため、葉摘みで落とした発病葉や摘果した発病果は回収し適切に処分しましょう。

反射シートは、収穫30日前頃（10月上旬頃）を目安に設置しましょう。

